

急に春めいてきました。博物館のお隣の樹林でも、タンポポが咲き始めました。タンポポには在来種（もともと日本にはえている種）と外来種（外国からやってきて定着した種）があることはよく知られています。しかし今、この両者の雑種が広く分布していることがわかってきています。今回はちょっと早めにタンポポをじっくり観察して、雑種の実態を確かめてみましょう。

在来種はどこに

一時期、外来種に在来種が席卷されて、在来種が絶滅寸前なのではないかと思われていましたが、そんなことはありません。在来のタンポポは、関東地方南部の相模原ではカントウタンポポという種類が分布しています。在来のタンポポは農地周辺の草地など、ほかの草もたくさん生えているような場所を好みます。それに対して、外来のいわゆるセイヨウタンポポは、ほかの草があまりはえていなくて、日当たりがよいけれど乾燥した、市街地や住宅地の道ばたのような場所を好みます。もともと両種は、生育に適した環境が違うのです。



カントウタンポポ

在来種にそっくりな姿の雑種

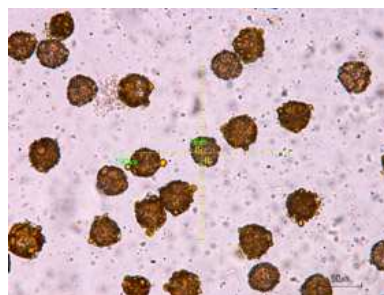
かつて、在来種と外来種は、繁殖方法がまったく違うことから、雑種をつくらないと言われてきました。ところが、遺伝子を詳しく調べてみると、やはり雑種がつけられていることがわかってきました。しかもその雑種は、カントウタンポポにそっくりな姿なのです。10年ほど前、街なかにはずいぶんと在来タンポポが増えてきたと思っていたら、じつはそのほとんどが雑種だったのです。



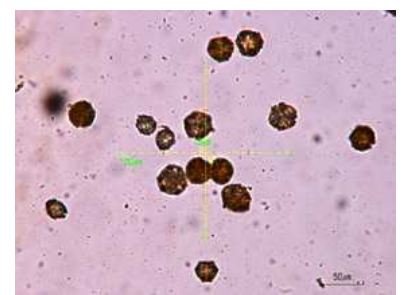
カントウタンポポ



雑種タンポポ



カントウタンポポの花粉



雑種タンポポの花粉（200倍）

どうやって見分けるの？

在来タンポポと外来タンポポの一般的な見分け方は、頭花を支える総苞という部分の形が決め手となります。しかし、雑種のタンポポは特に咲き始めは在来タンポポと見分けが付きません。時期がだんだん進んでくると、総苞がややゆるむ感じでまとまりがなくなるのですが、これだけでは慣れないとよくわかりません。そこで、花粉を採取して、生物顕微鏡で見えます。すると、雑種タンポポの花粉は、粒の大きさが不揃いなことがわかります。これは外来タンポポの特徴です。見た目が在来種に近くて、花粉が不揃いなら、雑種と判断できます。顕微鏡が必要なので簡単な見分け方ではありませんが、これが現在のところ、いちばん確実に調べやすい方法です。

次回のお知らせ（来月から毎月第4土曜日開催となります）
ミニ観察会：4月27日（土）12時～12時30分まで
4月から時間が変わるのでご注意ください。